

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を实践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1475001432
法人名	医療法人 啓和会
事業所名	グループホーム 渡田
訪問調査日	平成20年10月22日
評価確定日	平成20年12月12日
評価機関名	社団法人かながわ福祉サービス振興会

項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年12月15日

【評価実施概要】

事業所番号	1475001432		
法人名	医療法人 啓和会		
事業所名	グループホーム 渡田		
所在地 (電話番号)	神奈川県川崎市川崎区渡田2-7-1 (電話) 044-355-4712		
評価機関名	社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2-10 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成20年10月22日	評価確定日	平成20年12月12日

【情報提供票より】(20年9月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年2月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤 13人、非常勤 6人、常勤換算14.9人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 2階建ての 1階 ~ 2階部分		
------	-----------------------	--	--

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	70,000 円	その他の経費(月額)	27,000 円
敷金	①(280,000円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,300円	

(4) 利用者の概要(9月30日現在)

利用者人数	17 名	男性	3 名	女性	14 名	
要介護1		4 名	要介護2		7 名	
要介護3		1 名	要介護4		4 名	
要介護5		1 名	要支援2		0 名	
年齢	平均	83 歳	最低	70 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	野末整形外科 歯科内科・臨港病院・第一病院
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>グループホーム渡田はJR・京急川崎駅からバスで8分の都心に近い住宅街にある。周辺には郵便局、銀行、スーパーマーケットや商店街などがある。また公園も多く、利用者の散歩コースになっている。</p> <p>医療法人を母体としており、「いつまでも穏やかな生活を確かな医療と誠意ある介護であなたを支えます」を理念に掲げ、医療サポートを最大の特徴としている。特に法人関連の医療機関とのネットワークで、24時間訪問看護体制等、緊急時対応の充実を図っている。</p> <p>普段の生活の中から利用者の要望、意向を把握し、それを少人数での外出・外食などのサービスに結びつけるなど、個別ケアに重点を置いた支援を大切にしている。</p>
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者は、前回の評価結果を全職員に周知させると共に、改善課題については具体的な改善策を全職員で検討した。 「職員を育てる取り組み」及び「運営推進会議を活かした取り組み」が課題としてあげられている。一部未消化の部分はあるものの、改善に向けて真摯に取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価は職員代表が職員の意見を取りまとめ文書化して管理者に提出した。管理者はそれをもとに職員と再度打合せを行い、提出分を作成した。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>年4回、運営推進会議を開催している。参加者は、法人代表、事業所管理者、職員代表及び利用者の家族である。家族会を兼ねた運営になっている。 行政及び地域住民代表の参加を呼びかけているものの、実現には至っていない。今後は市、区の担当職員または地域包括支援センター職員及び地域住民代表の当会議への参加が望まれる。引き続き実現に向けての努力を期待する。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族の来訪時には声を掛けて、意見や要望を引き出すようにしている。また相談苦情対応マニュアルを整備すると共に、玄関に意見箱を設置している。運営推進会議においても意見や要望を吸い上げるように努めている。出された意見や要望については、事業所内で検討し、運営に反映するよう努力している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入し、夏祭りや盆踊りに、職員や利用者が参加し地域住民と交流している。「子供110番」に登録し、更新時等に近隣の小学校児童の訪問を受けている。ボランティアの受け入れはハーモニカ・社交ダンス・日本舞踊など多岐にわたっており、活発である。ボランティアセンターから、傾聴ボランティアの協力もある。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホームの理念は、「利用者の意向を尊重した個人の尊厳ある日常生活の保持」と「地域社会と連携した開かれた施設作り」を骨子としている。この理念の意義を職員が共有し、利用者の地域生活の継続支援と事業所と地域の関係強化を推し進めている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関には理念と職員の姿勢(心構え)が掲示しており、職員が理念を確認し合うようにしている。管理者は全体会議、リーダー会議等、折にふれ理念について述べ、職員間の共有を図っている。特に理念のひとつである「利用者の尊厳確保」については、職員がケアの現場で心掛け、実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、夏祭りや盆踊りに職員や利用者が参加し、地域住民と交流している。「子供110番」に登録し、更新時等に近隣の小学校児童の訪問を受けている。ボランティアの受け入れはハーモニカ・社交ダンス・日本舞踊など多岐にわたっており、活発である。ボランティアセンターから、傾聴ボランティアの協力もある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は、評価の意義や目的について全職員に周知している。今回の自己評価は職員代表が職員の意見を集約し管理者に提出した。管理者はそれをもとに職員と再度打ち合わせ、取りまとめた。また、前回の改善課題については具体的改善策を作成し、改善に向け取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年4回、運営推進会議を開催している。参加者は、法人代表、事業所管理者、職員代表及び利用者の家族である。家族会を兼ねた運営になっている。行政及び地域住民代表の参加を呼びかけているもの実現には至っていない。		市担当職員または地域包括支援センター職員及び地域住民代表の、当会議への参加に向けた働きかけを継続していくことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者の申請代行で区役所に出向いた際などに、担当者に事業所の状況等の報告をし、情報交換している。区の福祉事務所への相談も頻繁である。密接な交流と言えるまでには至っていない。		現状の交流を一步推し進め、市または区の職員の運営会議等への参加を含めた積極的連携への取り組みを期待する。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月請求書を送付する時に、近況報告、預かり金の出納報告、「わたりだ新聞(ホーム内新聞)」を同封している。また近況報告には健康状況とともに担当者からの一言を必ず添えている。家族の来訪時には、管理者、職員が積極的に声を掛け、情報交換をするように心掛けている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時には声を掛けて、意見や要望を引き出すようにしている。また相談苦情対応マニュアルを整備すると共に、玄関に意見箱を設置している。運営推進会議においても意見や要望を吸い上げるように努めている。出された意見要望については、事業所運営に反映するよう努力している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者担当制をとっているが、2ユニット合同での行事(リハビリ体操、ボランティアの演奏会、折り紙教室等)を多く取り入れることで、職員全員が利用者と同様に馴染みになるよう心掛けている。このため、やむを得ない異動の場合でも、他の職員との引継ぎはスムーズであり、利用者へのダメージを抑えている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員を対象に法人のデイサービスのプログラムによる研修を実施し、個々の職員の計画的、段階的スキルアップを図っている。外部研修の年間計画を張り出し、職員の参加希望を募っている。外部研修については、適材を管理者が指名し派遣する場合もある。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム連絡会に加盟している。職員交換研修へ2名を派遣した。また近隣のグループホームへ職員や入居者が相互訪問する機会を設けている。今後、共同でベンチ作りをし交流できる空間を作る計画がある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>体験入居に重点を置き、利用者の共同生活における適応性を見極めている。入居開始時は、無理強いせず、利用者のペースを保ちつつ、環境に慣れることからはじめている。利用者の安心、納得が得られた段階で安定的利用に移行している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は利用者一人ひとりの状態をよく観察して、本人に合わせて支援している。日々の生活の中で、戦争や関東大震災等の体験を聞くことで、職員が見聞を広めている。また共同で行う料理・洗濯・裁縫・掃除・大工仕事などでも職員が利用者から教わる場面を多くもてるように支援している</p>		
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>サービス開始時においてはアセスメントを重視し、趣味、生活歴、家族の話から本人の意向や希望の把握をしている。ホームに馴染んだ後は、職員が声掛け等を通じて、言葉や表情等から把握している。利用者担当職員が1対1で接する時間をもち、希望を把握し、個別ケアに結び付けている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画作成担当者を中心にサービス担当者会議を行い、関係職員全員で介護計画を作成している。利用者や家族から日々のかかわりの中で思いや意見を聞き、ケアノートに記載し介護計画に反映させるよう努めている。また、医療機関の意見、指示も介護計画に反映している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>毎月、介護計画に係わる計画の見直しを議題とするケアカンファレンスを行っている。状態に変化が生じた場合は都度の計画の見直しを実施している。</p> <p>ケアカンファレンスでは、利用者や家族からの情報を記載したケアノートをもとに、活発な意見交換が行われている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体の医療法人とのネットワークがあり、医療サポートが充実している。医療連携体制加算も受けている。家族の状況に応じて、通院や外出の送迎など必要な支援を柔軟に行っている。デイサービスや訪問入浴等、他の在宅サービスを受けている利用者もいる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の選択は利用者及び家族の希望を最大限に尊重し、入居以前のかかりつけ医、事業所の協力医の選択は自由である。協力医の内科・歯科は月2回の往診の他、必要な時は随時往診してもらえる体制が出来ている。脳外科、皮膚科等の専門医の紹介、受診サポートも行っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	必要に応じ、重度化した場合や終末期のあり方について利用者家族打ち合わせ、意思統一を図っている。家族の希望があり、医療機関と連携を取りながら看取りを行った事例がある。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の個人情報に係わる書類は、事務所の鍵の掛かる書棚、ロッカーに収納している。介護の現場では利用者の羞恥心への配慮、尊厳の確保が徹底されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、身支度や食事などは個々のペースを大切に支援している。普段の生活の中から利用者の要望、意向を把握し、それを少人数での外出・外食などのサービスに結びつけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員の見守りの下で、利用者は準備から後片付けまで一緒に行っている。食事は、いつも職員と一緒に同じ物を食べている。 少人数での外食や月2回の出前など、食の楽しみが増すように努力している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望により毎日入浴できる体制を作っている。時間帯も自由で、夜間入浴する利用者もいる。介助が必要な利用者にも3日に1度は入浴できるよう支援している。入浴しながらの利用者に対しては、喫煙をしてその流れで入浴を促す等の工夫をし誘導している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえるように、出来そうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。決して無理強いせず、その利用者のペースに合わせたサポートをしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に散歩や買い物に出かけている。車椅子の必要な利用者は職員とマンツーマンで散歩をしている。近所に配偶者が住んでいる利用者は体調の良い時に訪問したり、またジャズの好きな利用者とは駅近くのミュージックホールに出かけたりと、個別ケアに重点を置いた支援をしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	建物が道路の角地に建っており車の往来があり危険なため、各ユニットの出入口は鍵がかけてある。花の水やりをする利用者には時間帯を見計らい施錠をはずし、自然に出入りできるよう支援している。居室は、中から鍵がかかりプライバシーが守れるようになっている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月、避難指定場所の小学校まで利用者を退避させる避難訓練を実施している。消防署の協力の下での避難訓練も実施された。地域住民の避難訓練への参加協力は得られてないものの、常に自治会、近隣の商店等に協力を呼びかけている。飲料水、食料の備蓄も完備している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>個人記録に、食事摂取量および水分摂取量を記録している。法人の管理栄養士に、献立やカロリー、塩分摂取量など栄養面のチェックを受けている。また、糖尿・高血圧等の持病がある利用者には個別に盛り付けなどを工夫して対処している。</p>		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関や廊下には季節の草花が置かれている。リビングにはソファやテーブル、椅子などが配置され、家庭的で安心感のある場所になっている。また、レクリエーションで利用者が作った季節感あふれる作品が飾られている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には、事業所が設置した備品はなく、利用者と家族が自由にレイアウトしている。ベッド、家具、家族の写真など馴染みのものが自由に配置され、利用者が居心地良く暮らせる空間となっている。居室の入口には、手づくりの名前プレートがかけられている。</p>		

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
・サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム渡田
(ユニット名)	さくら
所在地 (県・市町村名)	川崎市川崎区渡田2-7-13
記入者名 (管理者)	神山重子(管理者)・石井英一
記入日	平成 20年 9月 29日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	事業所独自の理念を作り、パンフレットにも印刷してある。家族会の中でも挨拶の中に折込、話をしている。	現状より更に利用者さんが地域でくらししていける体制を整えたい。
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	毎月会議を開き、確認している。	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	家族には機会ある毎にGHを開放し、事業所の考えている理念を伝え、浸透するようにしている	地域にも浸透できるようにしたい。
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	隣近所の方と挨拶を交わし、近隣の商店を利用している	近隣のグループホームからは、入居者を訪ねて来られる方がおり世間話をしている。
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	町内会費を払い、地域の一員として、盆踊りや、夏祭りに参加している。お祭り際には、目の前で止まり披露してもらえた。提灯に名前もGH渡田として名前が書いてある。こども110番の指定先に登録し、毎年子供たちの訪問を受けている。	毎年実行していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>地域の小学校には、机や椅子を行事のときに借りたことがご縁でお付き合いがある。そのお礼を兼ね挨拶に行き、小学校の校庭の草むしりのお手伝いをした。</p>		<p>草むしりは、利用者に負担が大き過ぎた為、今後別のかかりを持つようにしたい。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>去年外部評価の指導により、消防署から消防訓練に来てもらった。家族にグループホームで実践されている介護の現状を手紙や新聞で知らせるように取り組んでいる。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議をとおして家族や近隣の方々にGHの取り組みやサービスを公表している。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>福祉事務所の担当者や安心センターの職員との交流を通しサービスの向上に努力している。</p>		<p>密接な交流にまでは至っていない。今後の課題である。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>学んだ情報から、今年家族のおられない入居者に、成年後見人をつけた。</p>		<p>必要な人にはそれらを活用できるよう支援していく。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>会議などで情報を共有している。施設内での見過ごがないよう介護のあり方や高齢者の尊厳を守るよう指導を徹底している。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約書は家族、施設側の双方立会いの上、読み合いをして納得の上、契約を交わしている。理解できない事は、後日でも質問を受け付けている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱を設置したり、ポスターを掲示し苦情をいえる環境を整備している。又、いただいた意見は運営に反映している。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族に金銭の報告書や、状況報告をしている。こられる方には口頭で、来られない方には郵送で知らせていた。</p>		8月からは、全員に書面で郵送している。
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱を設置したり、ポスターを掲示し苦情をいえる環境を整備している。又、いただいた意見は運営に反映している。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>GHでの定期会議のほかにも、個々の相談に応じる機会はある。又、意見や提案は極力反映させている</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>職員の出来る範囲で仕事を分担し、それぞれの能力を発揮してもらい それを評価している。行事には、いつもより多い人数で対応している。夜間の外出には、遅く出勤する職員を多めにしたり工夫をしている。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>可能な限り異動を最小限にしている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	かなふくセミナーや実践者研修等の社外研修及び、他部署の社内研修を行っている。		今年は、法人内のデイサービスにおける研修を8割方の職員がおこなった。外部の研修としては、レクリエーションの実践や、薬、接客のマナーなどの研修に参加している。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	隣接施設と職員や入居者さんが相互訪問する機会を設けている		近隣のグループホームと協同でベンチを作り、交流できる空間を築く予定にしている。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩時間はプライバシーが守られるよう個室で休憩をとれるようにしている。確実に休めるよう人員確保に努めている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の出来る範囲で仕事を分担し、それぞれの能力を發揮してもらい それを評価している。職員からの自発的な企画を尊重し、それが実行できるよう支援している。		すばらしい能力をもった人材が多数いるので、得意分野を生かしていける環境づくりに心がけたい。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	まず基本は本人を知ることから始める アセスメントを取り、本人の訴えに耳を傾けている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前から入居後までご家族との話をきく機会を作っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	GHで対応できるか判断し、出来ると見極めたら、いかに対応するか話し合いをしていく。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	まず体験入所をして、GHに慣れることからはじめ、無理強いしない 居室等の空間づくりは家族と本人に任せてある。様子をみながら自らのペースを保ちつつ距離を縮めていく。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・午前中の体操の前に利用者様と職員が皆フロアに集まり職員生前の頃の話、戦争や関東大震災の体験に基づく話、各々様の故郷の風習文化について、話を利用者様から引き出す様、職員は努め、又、話を聞く事で見聞を広めている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	・毎月、月頭に前月の各利用者様の日常の様子について、各担当者が家族宛にコメントを送る。 ・敬老会のようなイベント時に、家族を招待し、イベント後に家族会を行い、家族と情報交換を行う。		・月頭のコメントと一緒にアンケートを同封し、イベントの要望を家族に尋ねる、(ホームでやって欲しいこと) ・家族と職員によるミーティングを設ける。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	・年末年始、本人の外泊許可の是非を問う手紙を発送している。 ・毎月、月報の発送により、本人のホームでの暮らしぶりに親近感、透明化を図っている。(家族に対して)		・年に一回など、回数を決めて、家族の空き時間を伺い、ホームから連絡を入れ、電話で話してもらう。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・家族にイベントの参加を促して、本人との接点を増やす様努めている。 ・昔、本人の住んでいた地域を訪れる。 ・車によるドライブで昔馴染みの風景に触れてもらう。		・昔、行きつけのお店を訪れる。 ・昔馴染みの場所を訪れる。 ・イベントに友人を電話、手紙等で誘う。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	・レクリエーションの合唱会、トランプ、カルタ、キャッチボール、坊主めぐり、ちぎり絵、貼り絵等、始めは職員が誘導、説明、参加するが、途中からは利用者様達に任せ職員は距離を取り、観察する。		・仲の良い利用者同士、利用者の居室で、利用者だけで食事してもらう。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	・以前、退居された本人・家族宛に、敬老会等のイベント告知をし、参加を求めて、ハガキを郵送している。		・引き続き、イベントのお誘いをしていく。 ・仲の良かった利用者と職員でアポ取り、こちらから訪れに行く。
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・集団行動を離れた場(本人の居室)において、各担当職員が、マンツーマンで、時間をかけ、一人一人の真の思いを汲み取れる様、密にコミュニケーションを図っている。		・毎月、担当者が本人のしたい事を引き出し、それをミーティングで話し合い、翌月、実行に移す。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入居時、退院時、外泊後等、生活環境の変化が生じた時、それまでのアセスメント、サマリー、家族への尋問により、生活歴の把握に努めている。		・家族に頼み、本人が昔、使用していた物や、写っている写真等をホームに持ってきてもらう。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	・体操時、四肢の動作の観察、食事量、水分量、バイタルサインのチェック、一人一人の排泄確認、週1回の体重測定、夜間の睡眠状態の把握などに努めている。		・体操時、四肢の動作の観察、食事量、水分量、バイタルサインのチェック、一人一人の排泄確認、週1回の体重測定、夜間の睡眠状態の把握などに努めている。
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者会議を開催し、介護計画に反映している		利用者さんがより良い生活をグループホームで過ごせるようアイデアを反映している。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	新たに書き加えるものが生じた場合は、介護計画を作り変えている		そのときの状況に応じて対応している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・出勤したら、まず連絡ノート(共有ノート)を読むルールを守っている。 ・申し送りで情報の共有、連携を図っている。 ・各担当者が週間記録ノートを作成している。		・各利用者のサービス計画書のニーズと目標の項目を各個人ノートに貼用し、日々、目標の確認をしていく。
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入院時から退院時にかけての時間が契約書以上の期間になるとも本人、家族の状況におうじて柔軟な対応をしている		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・月頭に、広域避難所である近くの小学校まで行く避難訓練を行っている。 ・消防隊による消火活動研修を受けている。 ・ボランティア団体の受け入れを行っている。		・読書好きな方を図書館に連れて行く。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人との話し合いで、今後必要な方にはサービスを利用できるよう支援していく。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	GHだけでは、解決できない事例に出会った時は、包括支援センターに連絡を取り、打開策を模索するよう努めている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医を受診する方、かかりつけ医がないため法人で医療機関を探した方など本人と家族の希望を最大限生かしている。又、必要な医療が適切に受診できるよう眼科や皮膚科等の専門医にもかかれるよう支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	医師との連携は密接である。個々の病状に応じて認知症の進行を促進すると考えている睡眠薬等を極力減らすよう内科医と相談しながら投薬していただくよう支援している。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	24時間の訪問看護と提携し、入居者の日常の健康管理に勤めている。又、医療につなげる前に疑問や問題点を相談し解決するように支援している。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	定期的に入院される方もおられるので、リハビリ等はGHで行うよう早期退院の話し合いを持っている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りに関しての話し合いをかかりつけ医や家族と必要に応じて行っている。ご本人、家族の希望を第一にGHとして対応できるか否かを個々に話し合いをも方針の共有をしている。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	個々のケースで見極め、マニュアルを作成し、ご家族とかかりつけ医、GHとで何回かに分け、協議の場を持ち、チームで取り組んでいる。実際に昨年看取りを行いご本人、ご家族、入居者さん、職員にとっても良い最期を迎えられた方がいる。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	GHから退所される場合にも出来る限りの支援をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症対応の需要の原則に従い、本人の言動に対して否定的な声かけ、対応にならない様、充分に配慮している。 ・入浴、排泄時における声かけは羞恥心に配慮している。 	
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・食事のメニューや食材の希望を一人一人に尋ねている。 ・外出や入浴は本人の体調、意志を考慮している。 ・洋服の選択を本人にしてもらう様、促している。 ・希望を表出しやすい様にゆっくり穏やかな口調、答えを急かさない等、意識している。 	
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・本人の希望があれば、毎日でも入浴してもらっている。 ・本人が食べたいとおっしゃった「おやつ」を通常の買い物と一緒に買うようにしている。 ・本人が家族と会いたくない時、無理強いしない。 	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・起床時、くしを渡し本人好みの整髪をしてもらう。 ・理容・美容の希望がある場合、予約等してスムーズに進行するよう努めている。 ・お化粧品、コーディネートは本人に合わせ否定しない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ヘアスタイルが掲載されている雑誌を本棚に並べる。
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・メニューやおやつ希望を一人一人に尋ねて献立作りに反映している。 ・野菜切り、米炊き、味見、盛り分け、テーブル拭き、味付け等、一人一人に合わせた参加を促している。 ・月2回、出前を取り、食の楽しみが増す様、努めている。 	
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・大好物の焼きそば(夜食用)を本人が希望する時、近くのコンビニやスーパーへ職員と買いに行くようにしている。(職員冷蔵庫管理) ・朝の体操前におやつ希望をたずね、あれば買うようにしている。 	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	・本人が入浴している間に脱衣所のリハビリパンツを新しい物に鋼管、清潔保持の努めている。 ・車椅子を利用している、又、歩行介助が必要な方はできるだけトイレに近い席を用意している。 ・失禁された本人に対して心地良い声かけ、表情を心がけている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・午前中から給湯し希望に対して素早い対応を心がけている。 ・ある職員の入浴への声かけに拒否があっても性別、年齢、相性等、考慮し、本人の様子を見ながら再アプローチしている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	・夜間不眠、食事量の減少等現れたら往診時にドクターに随時報告している。 ・昼夜逆転が現れた場合、日中の活動量や離床時間を本人の体調に合わせ、調整し、ほど良い疲労を生み出し、夜間良眠へ導くよう努めている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・英語が得意の方には、簡単な英会話をしてもらうようにしている。 ・歌好きの方には家庭用カラオケを利用し、マイクを手に唄ってもらっている。 ・お話し好きの方には意識的に話を振り聞き役に徹する。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・買い物時、個人的な買い物(飴・飲料等)をされる方には事前に財布を持参するよう促している。 ・一定額の小銭を渡し、無くなったら渡すようにしている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・車椅子中心で団体行動が取り辛い方には、マンツーマンで職員と散歩するようにしている。 ・近所に配偶者が住んでる方には、体調の良い時、会いに行くよう職員が働きかけている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	・例えば「この秋に行ってみたい所、見たいものは？」と利用者様全員に質問し、希望を汲み取るよう努めている。 ・洋服好きな方と近くのショッピングモールへ洋服を買いに行ったり、見に行ったりしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・近所に独居の配偶者がいる方にはイベントのお誘いを利用して本人に電話をかけてもらっている。 ・事業所側から暑中お見舞いを発送し、ご家族に対し開かれたホーム作りを目指している。		・ご家族にお願いし、本人の友人の連絡先を頂く。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	・訪問されたら「いらっしやいませ」「またお越し下さいませ」と職員は、来訪者に対し爽やかな対応を心がけている。 ・利用者の個室で、来訪者と自由な時間を過ごしてもらい、職員は必要以上に干渉しないようにしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・職員一同、各利用者の尊厳を維持できる介護を提供できるよう努めている。また、その中で拘束の無いケアを実践している。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・利用者の行動の自由を尊重し、居室に鍵をかけないケアを実践している。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・食事、入浴、おやつ、体操、起床時、入床時等を通して、居室にいる利用者への声かけと同時に本人の様子を把握するよう努めている。また、夜間ラウンドを行い、特変の確認をしている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	・入浴中、浴室内で一人になる利用者もいる為、浴室洗剤は浴室外で管理している。 ・包丁を利用した野菜切り、ハサミを利用したレク等は、利用者のADLに合わせ、職員管理の下、提供している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	・服薬は職員管理を徹底している。 ・利用者の動線周辺の危険因子の除去。 ・地震、火災等を想定した、毎月の非難訓練実践。		・24時間対応の看護師連絡表を作成し、急変、事故等、起きた日時、場所、バイタル変化の具体的内容、看護師の指示を一目で把握できるようにする。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	・24時間対応の看護師との連携により、緊急時の対応に対処している。 ・一次救命処置の表をいつでも確認できる様、掲示している。		・毎月のミーティングで、各利用者ごとに起こりうる事故を想定し、対処方法を話し合う。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月避難訓練を実施し、消防署からも訓練に来てもらい、地域の避難場所にも挨拶してある		夜間に1人での訓練は、行っていないので危険のない範囲で実施したい
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	GHでできる事、出来ない事家族の支援が必要な事などリスクについても話し合う機会を設けている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	・各利用者の病歴、アレルギー等、アセスメント表としてファイル保存している。 ・声かけの反応、表情、歩行時の足取り、食事量、排泄回数等、特変がある時、速やかに24時間対応看護と連携している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・眠剤、降圧剤、利尿剤等の服用による状況変化があれば、記録し、ドクターに報告している。 ・薬の内容が、一目で確認できるファイルを保管している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	・食物繊維を充分取り入れた献立作りをしている。 ・お茶タイムに牛乳を利用したりしている。 ・水分補給を細かめに勧めている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	・食後、食べカスがないか、チェックする。 ・夕食後、義歯を外し、洗浄するようにしている。 ・かみ合せの不具合等生じたら、速やかに歯科医師と連携を取るようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食事量、水分量は個人記録に記入する。 ・利用者全員に希望を聞く機会を持ち、嗜好品をできるだけ把握する様努め、献立作りに反映している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	・職員は毎年、インフルエンザ予防接種を受けている。利用者様も同様。マニュアルを作成し、対応について記載してある。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	・毎日、夕食後に洗い済みの食器、調理器類の漂白を行っている。 ・残った食材、期限の短い傷みやすい食材は保管した日付を記入する。		
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	・玄関周辺に花壇や腰掛を設置し、利用者や家族、近隣の人にとって馴染み易い外観を工夫している。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・四季に合わせた、貼り絵、ちぎり絵作成をレクリエーションとして行い、皆様の目に付きやすい所に展示している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・比較的コミュニケーションの良好な利用者同士で一つのテーブル(食卓)を囲むよう配慮している。 ・テレビとソファを向かい合わせにして、独りになれる空間を作っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・テレビや時計、昔の写真、カセットテープ、本等、本人が居室で過ごしやすい様、自由に使用して頂ける様、努めている。 状況の変化により、居室に変更や居室内の配置換え、寝具の変更、ポータブルトイレの設置などで対応している。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	・朝食時、外出時等、居室に不在の時に、換気する様、努めている。 ・利用者の体温調節機能を考慮した温度調節に配慮している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	エレベータで各フロアに行き来ができ、床は、バリアフリー、廊下や玄関には手すりが設置されている。状況の変化により、居室に変更や居室内の配置換え、寝具の変更、ポータブルトイレの設置などで対応している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	・洗面所にある歯ブラシは、名前を記入し、誤使用防止に努めている。 ・トイレの場所を把握できるように、扉に【トイレ】と表示されたものを貼付している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先にベンチを置き、休憩したり、春先に植えた花の観賞をしている		更なる交流が出来るよう近隣の施設とベンチづくりに取り組む予定である。

サービスの実績に関する項目

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

事業所としては、入居されている方も、職員も生き生きと暮らし、働けるグループホームを作る事を目標に掲げています。生き生き楽しくは、持病があろうとも自らの尊厳が守られ、苦しみがなく笑顔や笑いがあふれている場を提供する事であると考えております。その為の環境整備に、日々努力しております。旅行に行きたい方には、ご家族の理解を得てから、真鶴と箱根湯本に1泊ずつ行きました。又、昨年ご家族とご本人の希望により看取りをさせていただきました。最期の1週間は食事もまったく口になさらなくなり、近くにいる者が動揺する場面もありました。しかし、「今日は点滴をする、しない」はご本人の自律を尊重し、見守る事としました。いつも回りには入居者や職員がいて、医療器具に囲まれる事もなく自宅のように暮らしておられました。家族が泊まれるように環境整備を行い、往診に医師が毎日訪れ、24時間体制の訪問看護の支援があつてなしかたのようになっております。家族、本人の希望、職員の理解、医療のバックアップのすべてがそろわなくては看取りは出来ないと感じました。死は誰にでも訪れるものです。今後も希望する方には、支援をしていきたいと考えております。

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を实践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
・サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム渡田
(ユニット名)	すみれ
所在地 (県・市町村名)	川崎市川崎区渡田2-7-1
記入者名 (管理者)	神山重子(管理者)
記入日	平成 20年 10月 1日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	作って有り、パンフレットにも印刷してある。家族会の場合でも挨拶の中に折込、話をしている。	事業所の理念と実践が共に理解されるようPRを続ける。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月会議を開き、確認している	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族には機会ある毎にGHを開放し、事業所の考えている理念を伝え、浸透するようにしている	地域にも浸透できるようにしたい。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣近所の方と挨拶を交わし、近隣の商店を利用している	近隣のグループホームからは、入居者を訪ねて来られる方がおり世間話をしている。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会費を払い、地域の一員として、盆踊りや、夏祭りに参加している。お祭り際には、目の前で止まり披露してもらえた。提灯に名前もGH渡田として名前が書いてある。こども110番の指定先に登録し、毎年子供たちの訪問を受けている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>地域の小学校には、机や椅子を行事のときに借りたことがご縁でお付き合いがある。そのお礼を兼ね挨拶に行き、小学校の校庭の草むしりのお手伝いをした。</p>		<p>草むしりは、利用者に負担が大き過ぎた為、今後別のかかわりを持つようにしたい。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>去年外部評価の指導により、消防署から消防訓練に来てもらった。家族にグループホームで実践されている介護の現状を手紙や新聞で知らせるように取り組んでいる。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議をとおして家族にGHの取り組みやサービスを公表している</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>福祉事務所の担当者や安心センターの職員との交流を通しサービスの向上に努力している。</p>		<p>密接な交流にまでは至っていない。今後の課題である。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>学んだ情報から今年家族のおられない入居者に成年後見人をつけた</p>		<p>必要な人にはそれらを活用できるよう支援していく。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>会議などで情報を共有している</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約書は家族、施設側の双方立会いの上、読み合いをして納得の上、契約を交わしている</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱を設置したり、ポスターを掲示し苦情をいえる環境を整備している。又、いただいた意見は運営に反映している</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族に金銭の報告書や、状況報告をしている ころれる方には口頭で、来られない方には郵送で知らせている</p>		8月からは、全員に書面で郵送している。
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱を設置したり、ポスターを掲示し苦情をいえる環境を整備している。又、いただいた意見は運営に反映している</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>GHでの定期会議のほかにも、個々の相談に応じる機会はある。又、</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>職員の出来る範囲で仕事を分担し、それぞれの能力を発揮してもらい それを評価している。行事には、いつもより多い人数で対応している。夜間の外出には、遅く出勤する職員を多めにしたいり工夫をしている。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>可能な限り異動を最小限にしている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	かなふくセミナーや実践者研修等の社外研修及び、他部署の社内研修を行っている		今年は、法人内のデイサービスにおける研修を8割方の職員がおこなった。外部の研修としては、レクリエーションの実践や、薬、接客のマナーなどの研修に参加している。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	隣接施設と職員や入居者さんが相互訪問する機会を設けている		近隣のグループホームと協同でベンチを作り、交流できる空間を築く予定にしている。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩時間はプライバシーが守られるよう個室で休憩をとれるようにしている。確実に休めるよう人員確保に努めている		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の出来る範囲で仕事を分担し、それぞれの能力を發揮してもらい それを評価している		すばらしい能力をもった人材が多数いるので、得意分野を生かしていける環境づくりに心がけたい。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	まず基本は本人を知ることから始める アセスメントを取り、本人の訴えにみみを傾けている		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前から入居後までご家族との話をきく機会を作っている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	GHで対応できるか判断し、出来ると見極めたら、いかに対応するか話し合いをしていく		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	まずGHに慣れることからはじめ、無理強いほしない 居室等の空間づくりは家族と本人に任せてある		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の話を聞き、残存能力を引き出し、職員も支援するが、利用者さんにも助けていただく		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の力を最大限利用していきたい。毎月月初に利用者の様子やGHでの活動を知らせる手紙を発送している。		・月頭のコメントと一緒にアンケートを同封し、イベントの要望を家族に尋ねる、(ホームでやって欲しいこと) ・家族と職員によるミーティングを設ける。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご本人からも家族からも話を聞き、バランスを保っている。年末に帰宅を希望されるか家族に手紙を発送している。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	すべてのなじみの場所を訪ねる事は出来ないが、訪ねて来られるかは大歓迎である。又行事には家族や親戚にお知らせを出し、参加していただくよう支援している。		・昔、行きつけのお店を訪れる。 ・昔馴染みの場所を訪れる。 ・イベントに友人を電話、手紙等で誘う。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	仲の良い方との話が円滑に進むよう支援し、言い争いが起きる関係の方同士が話している場合にはいつでも仲裁に入れるよう注意している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	希望される方には、いつでもGHで相談に乗る旨話、退所後新しい施設に会いに行ったり、GHにご本人が亡くなった後も家族が訪ねて来られる事もある。		・引き続き、イベントのお誘いをしていく。 ・仲の良かった利用者と職員でアポ取り、こちらから訪れに行く。
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人1人の話にみみを傾ける時間を持つようにしている		・毎月、担当者が本人のしたい事を引き出し、それをミーティングで話し合い、翌月、実行に移す。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を伺い、これまでに培われた能力を無理のない範囲で発揮していただき、自信に満ちた生活をしていただけるよう支援している		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	・体操時、四肢の動作の観察、食事量、水分量、バイタルサインのチェック、一人一人の排泄確認、週1回の体重測定、夜間の睡眠状態の把握などに努めている。		・体操時、四肢の動作の観察、食事量、水分量、バイタルサインのチェック、一人一人の排泄確認、週1回の体重測定、夜間の睡眠状態の把握などに努めている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者会議を開催し、介護計画に反映している		利用者さんがより良い生活をグループホームで過ごせるようアイデアを反映している。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	新たに書き加えるものが生じた場合は、介護計画を作り変えている		そのときの状況に応じて対応している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・出勤したら、まず連絡ノート(共有ノート)を読むルールを守っている。 ・申し送りで情報の共有、連携を図っている。 ・各担当者が週間記録ノートを作成している。		・各利用者のサービス計画書のニーズと目標の項目を各個人ノートに貼用し、日々、目標の確認をしていく。
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入院時から退院時にかけての時間が契約書以上の期間になるとも本人、家族の状況におうじて柔軟な対応をしている		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	傾聴ボランティアが月に1回来ている。消防署も消防訓練の実施にきた。田島小学校には机やマイクをお借りする事があるので、草むしりのボランティアに出かけた。又、子供110番に登録し、少しでも役立てるようにしている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人との話合いで、今後必要な方にはサービスを利用できるよう支援していく。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	GHだけでは、解決できない事例に出会った時は、包括支援センターに連絡を取り、打開策を模索するよう努めている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医を受診する方、かかりつけ医がないため法人で医療を探した方など本人と家族の希望を最大限生かしている。又、必要な医療が適切に受診できるよう眼科や皮膚科等の専門医にもかかれるよう支援している		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	医師との連携は密接である。個々の病状に応じて認知症の進行を促進すると考えている睡眠薬等を極力減らすよう内科医と相談しながら投薬していただくよう支援している。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	24時間の訪問看護と提携し、入居者の日常の健康管理に勤めている。又、医療につなげる前に疑問や問題点を相談し解決するように支援している。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	定期的に入院される方もおられるので、リハビリ等はGHで行うよう早期退院の話し合いを持っている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りに関しての話し合いをかかりつけ医や家族と必要に応じて行っている。ご本人、家族の希望を第一にGHとして対応できるか否かを個々に話し合いをも方針の共有をしている。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	個々のケースで見極め、マニュアルを作成し、ご家族とかかりつけ医、GHとで何回かに分け、協議の場を持ち、チームで取り組んでいる。実際に昨年看取りを行いご本人、ご家族、入居者さん、職員にとっても良い最期を迎えられた方がいる。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	GHから退所される場合にも出来る限りの支援をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>高齢者個人にあった尊厳のある言葉遣いをし、記録等個人情報には鍵のかかるキャビネットに保管している。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>本人の意思を尊重し、無理強いをするようなことはしない。看取りをした方もご自身の意思により今日は点滴を希望するしないを決めた。自己決定は尊重している。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>音楽会に行きたい方や旅行に行きたい方など、ご本人のしたいことを日常生活に取り入れている。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>ご家族や職員と好きな美容院に行かれる方、職員と洋服を買いに行かれる方など身だしなみやおしゃれにも支援している。ご本人の希望できないかたにも月1回床屋さんに来てもらっている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事の準備が出来る方には、準備、後片付けの好きな方には後片付けと能力を生かしていただいている。月に1回好みの食事をしに職員と外食にしている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>買い物と一緒にいたり、入居者の希望にそったおやつ、食事を取り入れている。ただし、GHの方針として禁酒禁煙の為、飲酒喫煙は出来ない。月に2回は中華の出前を取り、本人の希望する料理を食べている。夏祭り際にはノンアルコールビールを飲む事で雰囲気を楽しんでもらった。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄のリズムを掴み、それとなく声をかけトイレで排泄できるよう誘導している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴したい方には入浴できるよう本人の希望に合わせてるようにしている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	体調が悪ければ、寝ていただいたり、遅くまでテレビを見たい方には夜間でも自室で見えていただいている。早く就寝させたい方は、自由に就寝できる体制を整えている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職歴などで得意分野で能力を発揮していただいている。また、植物への水まき、掃除、調理など役割分担をしている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いとして管理されている方もある。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	必要なものの買い物、散歩など毎日戸外に出ている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	エスパに買い物に行ったり、箱根、湯河原に旅行に行ったり、ミュウザ、上野の美術館などに少人数で出かけている。		秋の遠足の企画もある。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけた、はがきを書くのを支援している。今年は年賀状と暑中見舞いをお一人ずつ作成した。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが訪問なされたら、居室で歓談できるように木を配っている		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束している方はいない		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	取り組んでいる		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・食事、入浴、おやつ、体操、起床時、入床時等を通して、居室にいる利用者への声かけと同時に本人の様子を把握するよう努めている。また、夜間ラウンドを行い、特変の確認をしている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	・入浴中、浴室内で一人になる利用者もいる為、浴室洗剤は浴室外で管理している。 ・包丁を利用した野菜切り、ハサミを利用したレク等は、利用者のADLに合わせ、職員管理の下、提供している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	・服薬は職員管理を徹底している。 ・利用者の動線周辺の危険因子の除去。 ・地震、火災等を想定した、毎月の非難訓練実践。		・24時間対応の看護師連絡表を作成し、急変、事故等、起きた日時、場所、バイタル変化の具体的内容、看護師の指示を一目で把握できるようにする。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の対応は指導を行っている。		・毎月のミーティングで、各利用者ごとに起こりうる事故を想定し、対処方法を話し合う。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月避難訓練を実施し、消防署からも訓練に来てもらい、地域の避難場所にも挨拶してある		夜間に1人での訓練は、行っていないので危険のない範囲で実施したい
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	GHでできる事、出来ない事家族の支援が必要な事などリスクについても話し合う機会を設けている		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	おかしいいつもと違うと気づいたら早めの対応で医療につなげている		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的、副作用、用法などの情報は共有している		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	体操や散歩などで身体を動かし、ヨーグルト、ヤクルト、野菜など薬に極力依存しないようにしている		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	歯ブラシや義歯洗浄など支援している		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	刻み、トロミ、おかゆなど好みや病状、習慣に応じて対応している		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成し、勉強会を開いている。インフルエンザは職員を含めて、全員予防接種をしている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材の買い置きは極力せず、当日もしくは前日に買い物に行くようにしている。まな板は毎日除菌し、食器は乾燥機を使用している		
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	施設というより民家の赴きのある建物にしてある。洗濯の物干し竿があり、自由に干せる。玄関先はスロープになっている		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者のプライバシーに配慮し、不必要な光や音はないように配慮している。季節の飾りをしたり、花を生けたりして、居心地良く過ごせるように工夫している		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを置き、玄関先にはベンチを置いている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテン、家具、寝具に至るまで家族とご本人で決めて入居されている		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	空気清浄機を使用したり、居室やリビング、台所、浴室の換気に努めている		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	エレベータで各フロアに行き来ができ、床は、バリアーフリー、廊下や玄関には手すりが設置されている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各フロアの入り口は個性を持たせ、皆様の居室入り口には、写真を貼り 食事の席は決めたり、風呂場やトイレには絵で表示を出している		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先にベンチを置き、休憩したり、春先に植えた花の観賞をしている		更なる交流が出来るよう近隣の施設とベンチづくりに取り組む予定である。

サービスの実績に関する項目

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

事業所としては、入居されている方も、職員も生き生きと暮らし、働けるグループホームを作る事を目標に掲げています。生き生き楽しくは、持病があろうとも自らの尊厳が守られ、苦しみがなく笑顔や笑いがあふれている場を提供する事であると考えております。その為の環境整備に、日々努力しております。旅行に行きたい方には、ご家族の理解を得てから、真鶴と箱根湯本に1泊ずつ行きました。又、昨年ご家族とご本人の希望により看取りをさせていただきました。最期の1週間は食事もまったく口になさらなくなり、近くにいる者が動揺する場面もありました。しかし、「今日は点滴をする、しない」はご本人の自律を尊重し、見守る事としました。いつも回りには入居者や職員がいて、医療器具に囲まれる事もなく自宅のように暮らしておられました。家族が泊まれるように環境整備を行い、往診に医師が毎日訪れ、24時間体制の訪問看護の支援があつてなしかたのと思っています。家族、本人の希望、職員の理解、医療のバックアップのすべてがそろわなくては看取りは出来ないと感じました。死は誰にでも訪れるものです。今後も希望する方には、支援をしていきたいと考えております。